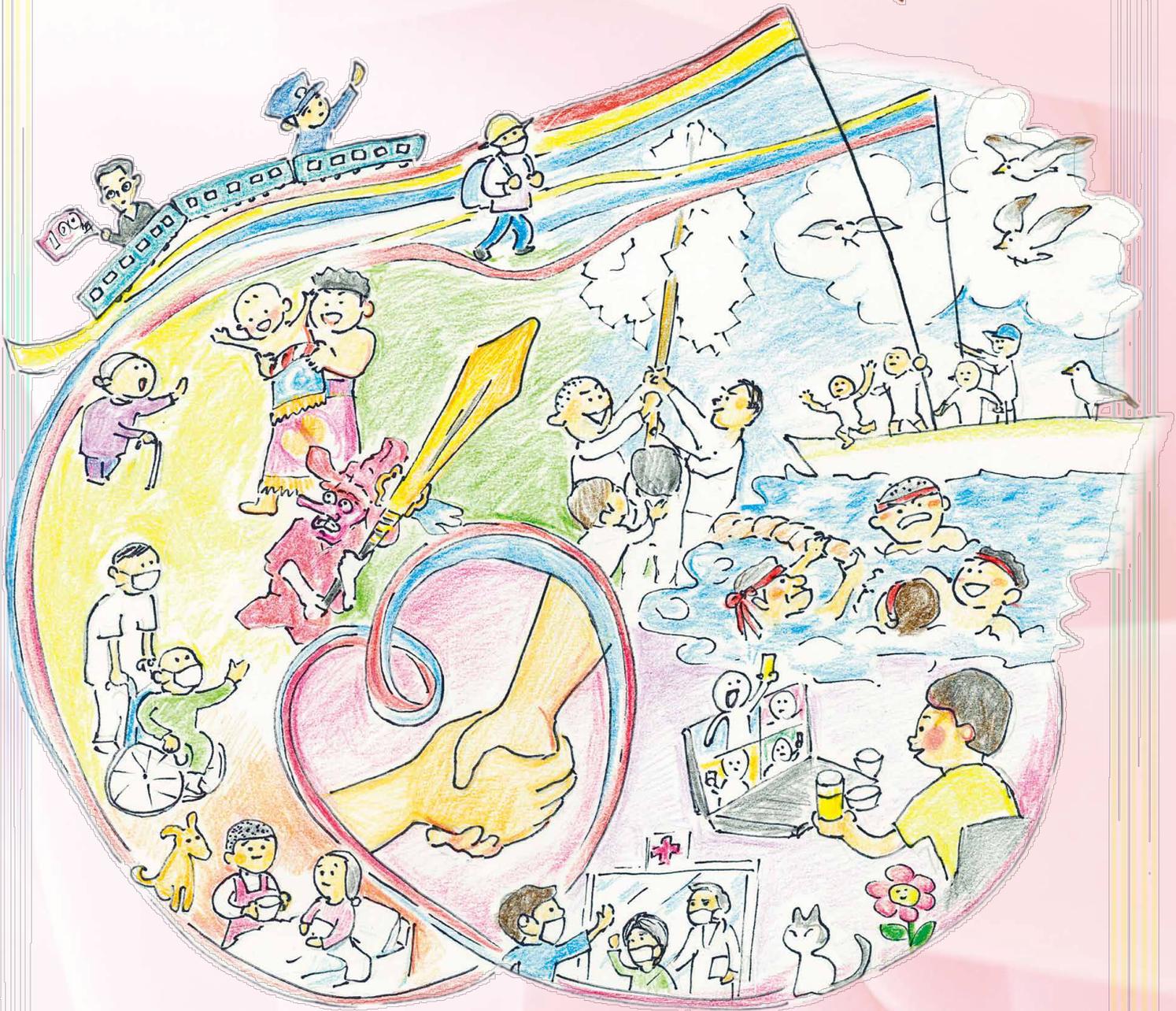


人権啓発資料

ふれあい

2022

つながろう ふれあおう



もくじ

- ・ハートディスタンスは縮めよう
- ・8050 問題から考える
- ・コロナフレイル
- ・お祭りの魅力 再発見
- ・オンラインでつながる
- ・水平社 100 年をめぐる旅
- ・ヤングケアラーとは？



美浜町人権尊重啓発協議会

「ソーシャルディスタンスは必要！ でも、ハートディスタンスは縮めよう」



病院に行っても会えないの？

新型コロナウイルスの影響から、病院などでは基本的に面会の制限が求められました。それにより入院患者や入居者にとって、家族や友だちと容易に会えない状況となり、高齢者の認知機能の低下、母親の産後うつ、終末期がん患者が使う痛み止め用麻酔薬の使用増加など、よりつらい境遇となりました。

認知機能の低下により、感染症予防のための対策であることが理解しづらい



患者
入居者

「どうして家族が会いに来てくれないの？」と不安な気持ちが強くなる

家族とふれあう時間が持てないことでストレスが増える

身寄りがなく友人とも面会できず孤独感がつる

精神的なストレスを抱えてしまう

面会制限のため孤独にさせていると家族が心苦しく思う



家族
医療
介護

看取り時の付き添い制限があったため思いに十分に添えない

対面での関わりが減り、家族との情報共有が難しい

患者や入居者と同様に精神的なストレスを抱えてしまう

面会はできないけど…

家族との面会ができない分、メール・LINE・電話・オンラインのビデオ通話システムなどのツールを使用する。また、タブレットやスマートフォンによるリモート面会や家族への電話連絡、家族からの問い合わせ電話に対応する時間帯を設けるなどして、健康状態や精神面の不安を解消するような工夫がなされてきました。



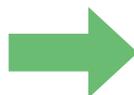
まだまだ新型コロナウイルスの感染が続いており、ソーシャルディスタンスをとることは必要かもしれませんが、新しいツールを活用したり、相手のことを思いやったりすることで、ハートのディスタンス（心と心の距離）は縮めていきたいものですね。



「コロナフレイル」とは？

「コロナフレイル」とはコロナ禍による活動制限で、心や体が衰えた状態になることを指します。

今全国各地でその危険性が指摘されています。



一方で...

介護予防には、食事や運動に加え、社会参加も重要であることが分かっています！

★今だからこそ、つながりづくりを

基本的な感染予防対策をしたうえで、集まりの場を実施することで、「第二のコロナ禍」を防ぐことができます。

また、自宅でひきこもりがちになり、気持ちもふさがちになった人達の心も明るくなります。



電話でもかまいません。

こんな時代だからこそできるつながりづくりを、みなさんと考えるチャンスです！

オンラインでつながる



新型コロナウイルスの影響により、遠くの親戚や知人と会う機会が少なくなってしまったのではないのでしょうか。



その中で、新しいコミュニケーションツールとしてスマホやパソコンを使った「オンライン」が生まれました。これは授業や研修、飲み会などで活用され、あつという間に一般的なツールとしてみんなに認識されるようになりました。

特にオンライン飲み会は親交を深めるために、若い世代を中心に利用されています。

- ・場所の手配、移動時間必要なし！
- ・遠い人とあつという間につながる！
- ・コストを抑えられる！

メリット

デメリット

- ・同時に話すことが難しい。
- ・ネットに慣れていない人は操作が難しい。



コロナ禍でも「オンライン」が人と人とのつながりを保ち続けている！



ヤングケアラーとは？



最近よく聞くようになった「ヤングケアラー」とは、障がいや病気を抱えているなどのケアを要する家族がおり、家事や家族の世話などを行う18歳未満の子供を指す言葉です。

なお、20代、30代までの子供を含めて「若者ケアラー」と呼ぶこともあります。

ヤングケアラーは本来大人が担うべき、以下のようなケアを行っています。



幼い弟妹の世話



家族の看護や介助



炊事や洗濯などの家事



依存症や認知症の家族への対応



文書の代読

ヤングケアラーの子供は、「学業や進路に影響が出る」「自分の時間がとれない」「交友関係が築けない」「孤独を感じる」「体力・健康が損なわれる」等の問題点を抱えています。

大人に代わって家族のケアを行うヤングケアラー。該当者は多いにも関わらず、まだ適切なフォローを受けられていない子どもが多く、課題が山積みになっています。また、ヤングケアラーの自覚がないまま家族をケアする子どもも多く、行政のさらなる支援が求められています。

相談窓口

児童相談所相談専用ダイヤル

児童相談所は、都道府県、指定都市等が設置する機関で、子どもの健やかな成長を願って、ともに考え、問題を解決していく専門の相談機関です。虐待の相談以外にも子どもの福祉に関する様々な相談を受け付けています。

電話番号：0120-189-783（フリーダイヤル）

受付時間：24時間受付（年中無休）※令和3年7月から無料化

24時間子どもSOSダイヤル（文部科学省）

いじめやその他の子供のSOS全般について、子どもや保護者などが夜間・休日を含めて24時間いつでも相談できる、都道府県及び指定都市教育委員会などによって運営されている、全国共通のダイヤルです。

電話番号：0120-0-78310（フリーダイヤル）

受付時間：24時間受付（年中無休）※通話料無料

子どもの人権110番（法務省）

「いじめ」や虐待など子どもの人権問題に関する専用相談電話です。

電話番号：0120-007-110

自分でSOSが出せない人がいます。
気になることがあればご相談ください。



8050問題って知っていますか？

80代の親が、自宅にひきこもる5代の子どもの生活を支え、経済的にも精神的にも行き詰まってしまう状態のこと

地域や社会とのつながりが薄れると、困りごとや悩みごとを自分だけで抱え込んでしまいます。

経済的困窮 **孤独死** **ごみ屋敷**

など…



昨今取り上げられるいろいろな問題も、「誰にも相談できない」という、つながりの希薄化が原因のひとつだと考えられます。

私たちには何ができるでしょうか？

★孤立は誰にでも起こり得る だからこそできること



急に身体状況や生活環境が変化し、孤立に陥ることがあります。

だからこそ、日ごろの周囲の人々とのつながりづくりを心がけてみませんか。「知らない同士」より「知っている同士」の方が、自分が困ったときに「助けて」と言いやすいはず。また、誰かが困った時に手を差し伸べやすいはず。より良い地域を作っていきましょう。



親切のバトンはつながり続けています

小さい手のリレー



2021.1月 読売新聞
2022.4月 NHK WEB特集
2022.8月 フジテレビ「奇跡体験!アンビリバボー」

35歳から目の病気を患い視力を失い始めた山崎さん。通勤時の、道路の溝や車の音。それまで気にならなかったことが大きな負担となり「もう仕事辞めようかな」と考えてばかりいたある日の朝、停留所でかけられた「バスが来ました」そして背中に感じた小さな手。

山崎さんの様子を毎朝見ていた小学生の女の子との交流は小学校卒業後も途切れる事なく、その様子を見ていた下級生のお子さん達はそのバトンを引き継ぎ、「小さい手のリレー」は山崎さんが60歳で定年退職をするまで続いたそうです。

また、このエピソードは絵本「バスが来ましたよ」になりました。

人権啓発DVD「夕焼け」

※人権協所蔵（図書館で借りることができます）

主人公・瑠衣は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族でするのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。



※人権協では、多くの人権啓発DVDを所蔵しています。町立図書館で気軽に借りることができますので、ぜひご利用ください。

【お祭りっていいよね！】

・地域の人々が集い、共に考え、行動することができる場である祭

- 様々な世代の人々が参加でき、人間関係を築いたり、社会規範を学んだりすることができます。
- 人と人とのコミュニケーションを通じ、近代社会で薄れつつある、祭りのノウハウや知識を会得・伝承することができます。



王の舞（宮代）

・伝統的な特質の継承

- 地元の伝統や文化に触れ、ふるさと意識の構築を図ることができます。
- 互いの異文化コミュニケーションへ触れ合う場であり、互いに見合い楽しみ合うことができます。



水中綱引（日向）

【昨今のお祭りって？】

・担い手不足

- 少子化や若年層の都市部流出による担い手不足が深刻となっています。
- 担い手不足により、伝統や知識等の継承が問題となっています。

・モチベーションの低下

- ライフスタイルの変化により、個人の時間を大切にする人が増えてきており、時間の捻出が難しくなっています。
- 若年層を中心に、計画や準備の煩雑さを感じてしまう人が増えてきています。



舟天祭（久々子）

・コロナ禍における現状

- 合意形成の難しさや行政からの方針に左右されてしまう点、コロナ対策への費用及びノウハウ、人手の捻出が課題となっています。
- コロナ終息後は、お祭りの復活を希望している声が多いようです。



弥美神社例大祭（宮代）



八朔祭（日向）

ここ数年はコロナウイルスの感染状況も影響し、お祭りの開催は減少傾向にあります。



こういった時期だからこそお祭りを通じ、人と人とのつながりやふれあいを深めていくことが重要だと思いませんか？



でかけよう・つながろう・ふれあおう ～ 水平社 100年をめぐる旅～



1922年3月3日、被差別部落の人々の解放をめざして「全国水平社」が設立されました。そのとき読み上げられた「水平社宣言」は、部落出身の一人の若者、西光万吉が書きました。すべての人が差別を受けることなく、人間らしく暮らせる社会の実現を願うもので、人々を勇気づける名文です。水平社宣言をめぐる旅に出かけ、100年前の人々の思いにふれてみませんか。



美浜町 福井県水平社

水平社は全国各地に創立されました。福井県は中でも早く、1922年の創立でした。

福井県



京都市 全国水平社創立の地 (岡崎公会堂跡地)

1922年3月、全国から約三千人が集まり、創立大会が開かれました。



荊冠旗

いばら

受難を示す荊の冠が、差別の黒と解放への情熱の赤で表現されています。画家志望だった西光万吉がデザインしました。

京都府

奈良県



京都市 柳原銀行記念資料館

被差別部落の住民によって作られた銀行です。R4年6月～R5年2月まで耐震工事のため閉館中です。

和歌山県

紀の川市 西光万吉資料館

軍国主義の台頭で水平社が消滅。1941年に妻の実家に移り住んだ西光。戦後は平和運動に邁進しました。



西光寺

水平社博物館の向かい側、西光万吉（本名、清原一隆）の生家です。1748年建立のお寺です。

御所市 水平社博物館

水平社創立の理念を共有し、発信しつづけています。博物館周辺ではフィールドワークもできます。



「人の世に熱あれ、人間に光あれ」



みんなの笑顔が
MIHAMA
かがやく美浜